

第3回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション・学生アンケート集計

(「第3回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション学生アンケート」より抜粋)

作成年月日：2005年2月25日
作成者：交渉教育支援センター

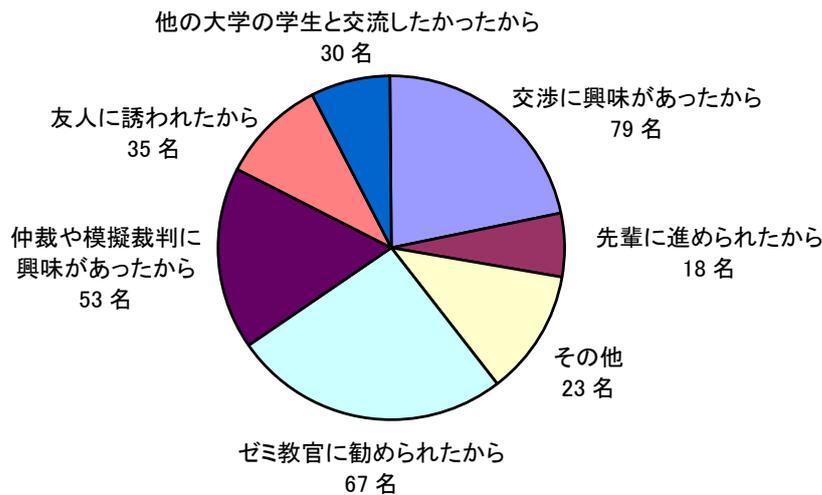
アンケート実施年月日：2004年11月21日

回答枚数 142枚

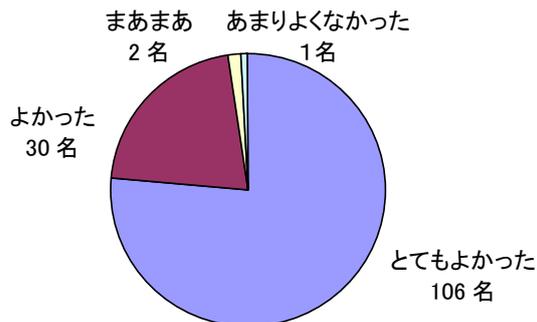
回答対象大学名：(日本語チーム：86名 英語チーム：49名)

上智大学、名古屋大学、一橋大学、同志社大学、北海道大学、九州大学、中央大学、慶応大学、早稲田大学、大阪大学、東京大学、京都大学

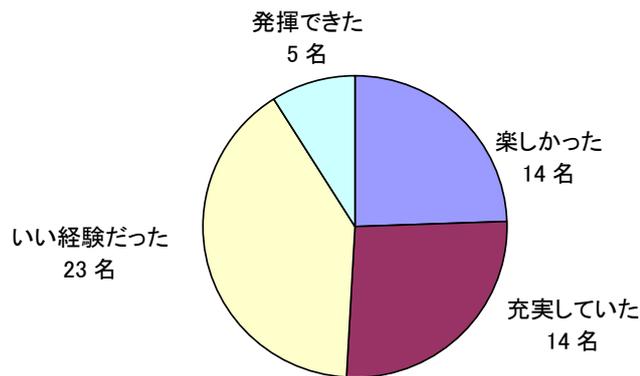
Q1：参加動機：あなたが本コンペティションに参加した動機をお聞かせ下さい



Q2：本コンペティションに参加してよかったと思いますか？



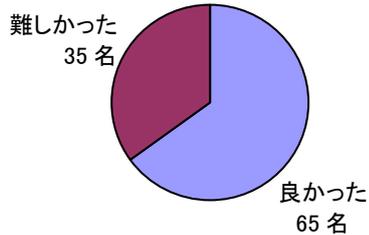
Q3:上記の回答について、理由がありましたらお聞かせ下さい。



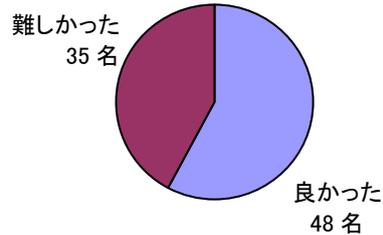
Q4:課題問題は適当だったとおもいますか。①難易度、②事業の内容、③秘密の情報のそれぞれについて、あなたの評価やご意見をお願いします。

・ 適当だった 15名

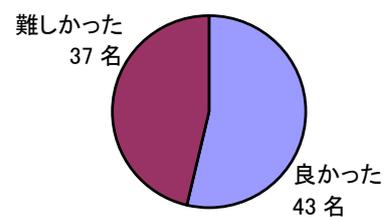
① 難易度



② 事業の内容

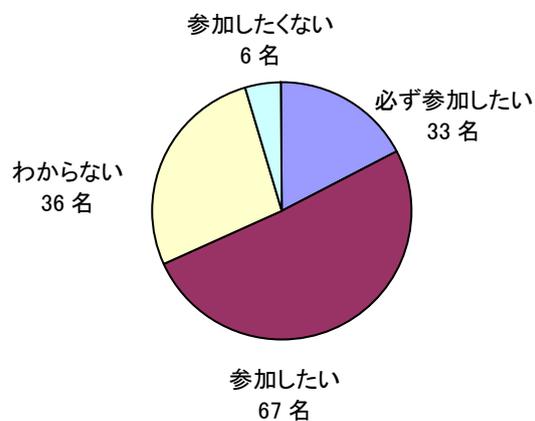


③ 秘密情報

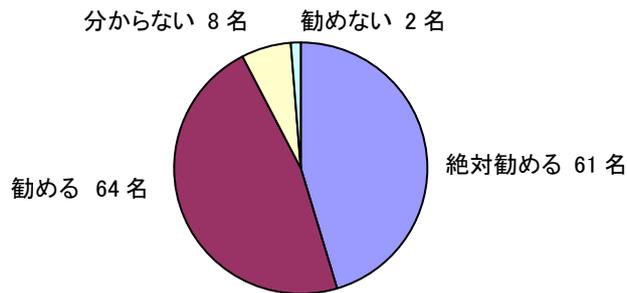


Q5:このような交渉を中心とした大学対抗コンペティションについてお答え下さい。

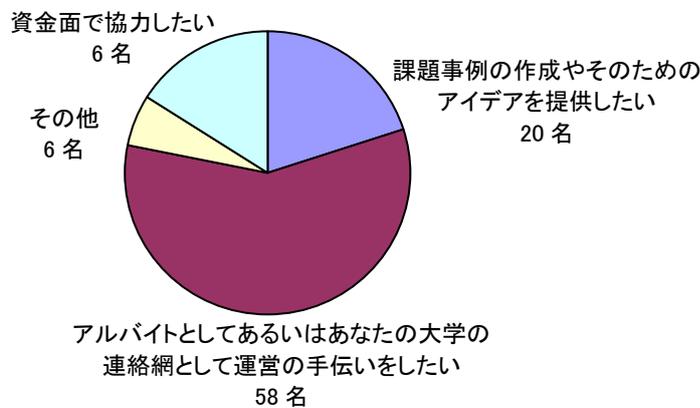
(1)あなたは、可能であれば来年も参加したいと思いますか？



(2) 来年の大会に参加可能な友人や後輩がいれば、参加を勧めますか？



Q6: あなたは本コンペティションの組織運営等に、将来的にかかわって行きたいと考えますか？



Q7: あなたは本コンペティションに参加して得られたものは何ですか？今年参加した経験を将来どのように役立てたい(ないし、どのように役立つ?)お考えですか？

(複数の回答から抜粋)

- ・ 説得力を持たせて、三段論法を使って話をする力が重要だと学び、質問の意図趣旨をくみとって答えることを気づかされた。
- ・ 将来的な職種として企業法務を志望しているので、仲裁や交渉を模擬的に体験したことそのものが財産となることと感じています。また、基礎的な理解の不足や自身のプレゼンの仕方 etc、枚挙にいとまない教訓がありました。
- ・ まず第一に、普段は交流のない他大学の方々や先生方とお話できたのが良かったです。あと、大学内での準備段階において、院生の方々とも交流することができ、視野が広がりました。仲裁人や審査員の方々ともたくさんお話をさせていただいて、実務に関する現場の視点をかいまみることが出来たのも貴重な体験でした。

以上